

# 水稻の生育状況と今後の管理対策（第1号）

令和2年6月2日  
新潟県農林水産部

## 〔6月1日現在の生育状況〕

- ◎ 水稻の生育は、平年に比べ全般的に進んでいます。
- ◎ コシヒカリでは指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、茎数は「多い」、葉数の進みは「早い」状況で、生育が早まっています。
- ◎ 新之助では指標値に比べ、草丈と葉数の進みは「並」、茎数は「やや多い」状況です。

## 〔気象予報と今後の生育見込み〕

- ◎ 5月28日発表の1か月予報によると、6月の平均気温は平年より高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されています。
- ◎ 5月の平均気温も平年に比べ高かったことから、コシヒカリでは茎数が急激に増加し、平年よりもかなり早く中干（なかぼ）し\*適期に達すると見込まれます。

\*1 中干し：田の水を落として、一時的に田を乾かすこと。

## 〔管理対策のポイント〕

### 中干し・溝切り

- ◎ 今後さらに茎の発生が旺盛になり、過剰生育が懸念されるので、田植え後25日を過ぎたら生育を確認し、遅れずに中干しを開始するとともに、溝切りも確実に実施しましょう。
- ◎ 特に、連休植えのほ場や生育が過剰になりやすいほ場では、ただちに中干しを開始してください。

### 水管理

- ◎ 気温の高い状況が続いていることから、地温の上昇にともない、田のワキ\*の発生が多くなることが予想されます。生育が遅れ、ただちに中干しに入れないほ場では夜間落水を行い、根腐れや生育停滞を防止しましょう。

\*田のワキ：稲わらなどが分解する際、ガスが発生すること。

- ◎ 今後の管理対策発信予定日  
6月11日・21日、7月2日・11日・19日・26日・31日、8月21日、9月11日

## 〔補足資料〕

### 1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（6月1日現在）

#### つきあかり

- 指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「多い」、葉数の進みは「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	29 cm	30 cm	並	98%
茎数	169 本/m <sup>2</sup>	145 本/m <sup>2</sup>	多い	117%
葉数	6.2 葉	5.9 葉	並	+0.3 葉

注1) 化学肥料栽培。田植え5月7日、栽植密度は21.2株/m<sup>2</sup>

注2) 基肥窒素成分量 7.0kg/10a

注3) 長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ

#### ゆきん子舞

- 指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、茎数は「少ない」、葉数の進みは「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	32 cm	26 cm	長い	123%
茎数	137 本/m <sup>2</sup>	180 本/m <sup>2</sup>	少ない	76%
葉数	6.2 葉	6.0 葉	並	+0.2 葉

注1) 化学肥料栽培。田植え5月1日、栽植密度は18.6株/m<sup>2</sup>

注2) 基肥窒素成分量 2.8kg/10a(前作枝豆)

注3) 長岡市高野町の生育調査ほデータ

#### こしいぶき

- 指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや少」、葉数の進みは「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	23 cm	23 cm	並	100%
茎数	150 本/m <sup>2</sup>	159 本/m <sup>2</sup>	やや少	94%
葉数	6.0 葉	5.8 葉	並	+0.2 葉

注1) 化学肥料栽培。田植え5月11日、栽植密度は19.8株/m<sup>2</sup>

注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a

注3) 長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ

## コシヒカリ

- 指標値（生育のめやす）に比べ、草丈が「長い」、茎数が「多い」、葉数の進みが「早い」状況です。生育は平年に比べ早まっています。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	26 cm	23 cm	長い	113%
茎数	106 本/m <sup>2</sup>	90 本/m <sup>2</sup>	多い	118%
葉数	5.5 葉	4.8 葉	早い	+0.7 葉

注) 県内全域の99生育調査ほデータの平均値(田植え5月10日、栽植密度16.9株/m<sup>2</sup>)

- ◎ 中干しの適期は、茎数が目標穂数の7～8割を確保した時期(遅くとも田植え後30日)  
 ◎ 生育が過剰になりやすいほ場では、より早めの6～7割の時期(田植え後25日)  
 ◎ 田植え後25日をめどに、速やかに茎数を確認し、遅れずに中干しを開始

## 新之助

- 指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや多」、葉数の進みは「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	23 cm	24 cm	並	97%
茎数	85 本/m <sup>2</sup>	81 本/m <sup>2</sup>	やや多	105%
葉数	4.9 葉	4.8 葉	並	+0.1 葉

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値(田植え5月17日、栽植密度16.4株/m<sup>2</sup>)

- ◎ いもち病の伝染源となる補植苗はただちに除去  
 ◎ 5月20日以降の田植えでは、気温の上昇により茎数の急増が予想されるため、分けつ  
 の発生状況に留意  
 ◎ 化成の全量基肥肥料は茎数が増加しやすいので、目標穂数の8割を確保したらただ  
 ちに中干しを開始



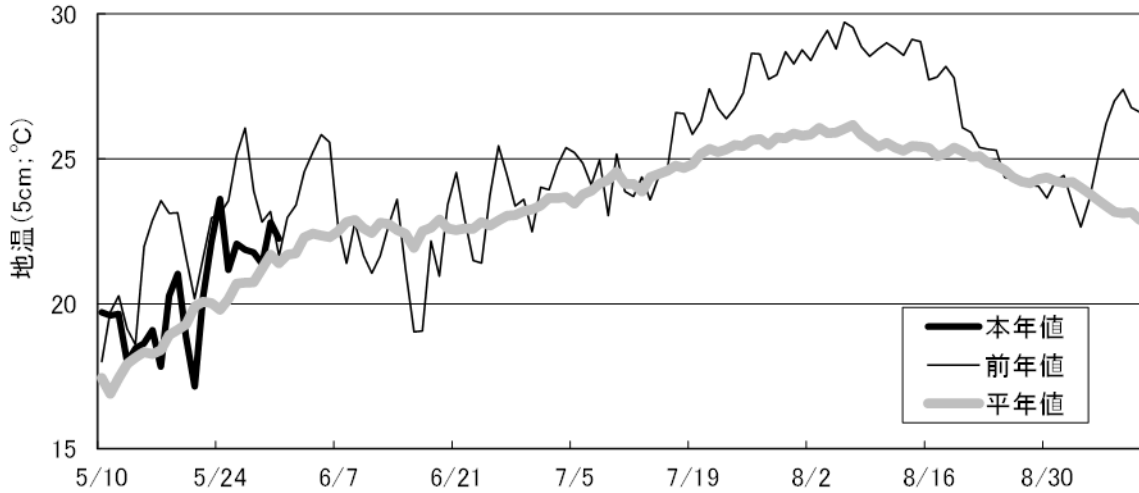
中干し開始適期ほ場  
(目標穂数の80%の茎数)



適期を5日過ぎているほ場  
(目標穂数の120%の茎数)

## 2 ちりよく 地力窒素の発現状況

- 移植日からの日平均地温は平年差+1.0℃で、地力窒素の発現量は平年より多い。



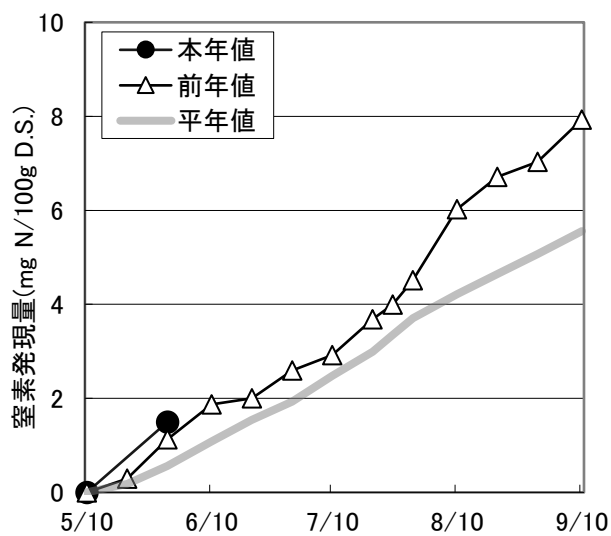
地温 (5cm) の推移

地力窒素の発現状況 (農総研基盤研究部調査) (mgN/100g)

	5月11日①	5月31日②	地力窒素発現量※1 (③=②-①)
本年値	2.0	3.5	1.5
前年値	3.5	4.7	1.1
平年値	2.3	2.9	0.6

※1 小数点2ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

※2 化学肥料でN成分3.5kg/10a施用。平年5月10日田植え



地力窒素の発現推移  
(初期値を0とした)